

★日本共産党の藤野やすふみ議員(北陸信越ブロック)は25日、衆院予算委員会で初質問に立ち、福島第1原発事故で明らかになった同時多発事故の危険を取り上げ、政府、原子力規制委員会に対し原発集中立地の危険性の審査、検討もなしに再稼働は許されないと迫りました。

と な み

旗 読者のひろば

日本共産党
砺波市委員会
西尾 英宣
千代 180
Tel 33-6118

【三世代同居の推進】

既存サービスの充実こそ

砺波市の新年度予算案、一般会計は過去最大の二一三億円。小中学校の耐震改修が完了するなど喜ばしいことです。

二十五日、市議会議案説明会で市長は、新年度予算の目玉とする「三世代同居推進事業」(五年間続ける予定)について「三世代同居は大きなメリットがある反面それなりの苦勞もある」という話をきき、砺波らしい地域の特色を生かした施策をすすめていきたい。三世代同居でなければダメということではなく、そうでない人は既存または拡充する福祉で対応し、三世代同居

についてプラスアルファで対応したいとの思いだ」と語りました。七十五歳以上の高齢者の節目の年に市内宿泊施設の利用券をおくる、在宅で要介護4以上の高齢者のショートステイ利用補助など、悪いことではありません。「三世代同居」の定義については「現実をみて」ということのように、微妙な感じですが、同一敷地内で別棟、食事は一緒? また、気になったのは「三世代同居でない人は既存または今回拡充する福祉で対応」という

部分です。

いっそうの負担増

いま、どこでも、「年金は削られ、負担ばかり増える」という声が聞かれます。

このうえ、既に報じられているように砺波地方介護保険組合では新年度から、介護保険料の基準額を現行の五〇八〇円から五七八〇円に一三・八%も引上げることを盛り込んだ第六期砺波地方介護保険事業計画(二〇一五〜一七年度)を二十四日の組合議会できりまどめました。

また、砺波市国民健康保険運営協議会で、市当局が新年度国保税率の引き上げの検討を進める考えを示しました。

削ってきたサービス

市は「行政改革」の名のもとに、米寿のお祝いの廃止(福祉金や米寿のお祝

いなど、効果の薄い事業や高齢化の中で必要性が疑問視される事業について見直しを行うもの)二〇一一年当時の市長答弁

や、福祉バスの廃止など、「公平性の観点」や「受益と負担の適正化」として、新年度でも先週お伝えしたように高齢者入浴施設等利用券について一回一〇〇円負担にするなど、さまざまサービス

を削ってきています。そうしたなかで、「三世代同居についてはプラスアルファ」というのは、ちよつとズレているのではないのでしょうか?

広く受けられる

サービス拡充こそ

三世代同居であっても働けるうちは一所懸命働かざるをえないとか、諸事情によって三世代同居

ができない人も多くいます。そうした実態を考えれば、市長の言うようにまずは「既存または拡充

する福祉」をこそ充実すべきと考えます。

三世代同居で二歳まで育児したら、第一子一〇万円、第二子五万円を保育所や幼稚園入所補助として支給も有り難しい話でしょうが、〇歳児がなかなか入所出来ないなどの問題を先に解決できないものでしょうか? 勤務

の関係で同居じゃない祖父母が若い人のところに毎日かよつて孫をみているなどの例もあります。いっぽうで、チューリップ公園北門更新などに二億円などの予算案が示され、「観光関係には熱心なのね」などの声も聞かれるところでは

高齡化社会のなか、「福祉にこそお金をかけることとで、地域のなかでお金がまわり効果がある」という考え方もあります。市議会でも議論になるでしょうか?(ならないよねえ...)

★3月8日の自民党大会で決める2015年の同党運動方針案が明らかに。「憲法改正推進」を柱に掲げ、改憲原案の作成や改憲に向けて国民運動の推進を強く調べるなど、これまで以上に明文改憲を強く打ち出しています。時期は明示していませんが、安倍晋三首相は来年の参院選後に改憲発議に踏み出す意向。

【ただのつぎやき】

22日 訪問活動

仲間と「しんぶん赤旗」のおすすめなどで訪問。

J A富山中央会の穴田会長の載った記事を示しながら農業者とお話すると、「農協の改革は必要」という声は多いです。しかし、その中身は、穴田会長がいうように、農協の自主的な改革を求めるものであり、いま政府が進めようとしている「改革」はおかしい、との思いです。

また、四〇代の息子さんがコンピュータ関係の会社で連日深夜まで勤務。上司は(労基署対策で?)「有給をとれ」とは言うが、同じ口で「もつと働け」という...といった話をされた人もいました。

25日 藤野衆議初質問

日本の原発の半分が集積する北陸信越ブロック選出で当選した藤野やすふみ氏が予算委員会での初質問(当初二十四日の予定だったのが国会空転で延期)。藤野さんらしく。た

いへんロジカルに展開。身近な衆議院議員としてたのもしい限りです。

25・26日 市議会議案説明会を傍聴

「三世代同居」を否定するつもりはありません。三世代同居の世帯に何らかのサービスが出来ないかということは私も考えるものです。が、今回の予算案はどうもいただけません。

三世代同居推進の九つの事業:「高齢者ちよつとねざらい事業」「介護者もちよつと一息事業」など、いまの市長になってネーミングが:事業予算総額三三三〇万円:「後付けだが、みんな、さんきよ、さんせだい」などという言葉も耳に入りましたが、「みんな、さんざん」なんてことにならないことを願います。

先日、高齢者入浴施設等利用券の個人負担一〇〇円について、「一〇〇円でも、お年寄りとお金をやりとりすることの大変さをわかってるのか?」という指摘をされた人がいま

す。行政改革で、無料で使えた施設にも料金設定することになったときも、同様の指摘がありました。

「新たな公共交通を考える研究会」をたちあげる予算が示されました。以前からいわれているデマンド交通などについても検討する予定のようです。散居村という地域特性にあった公共交通を深めていた

教科書改訂に伴い、先生が使う(電子黒板対応などで)教材等が大変高額になり「教科書改訂はたいへん」なんて言葉も聞こえましたが、私は「戦争する国」へと突っ走っているように思える安倍首相のもとでの教科書改訂の中身の方が心配なのでした。

(何でもお気軽にご連絡・ご相談ください・多田携帯 090-3369-8216)

【続きんごの日記】

26日 「らいねんもせんなんおもたら、やーなるね」

砺波弁もひらがなで表

記すると何だかわかりづらくなりませんが、標準語だと「来年もしなければならぬのかと思ったら、嫌になるね」となるのでしようか、今朝起きて素麺の作業にかかろうとした時に妻が語り掛けてきた第一声です。

夏のあぜ草刈の時も、こんな事はもうしたくない!と思うのだけど、時間が経つと思いの強さは和らいでいくのだそうです。

しかし朝から晩までの素麺作業の繰り返しは、そのはならないというのです。仕事の相棒がこんなにつらがっているのかと思うと、次代に繋いでいかなくちやという気持ちがちよつとたじろぎます。

家事の一切を任せて居ることに申し訳ないなどという気にもなります(気持ちだけ、行動にはなかなかならないのですが...)二十年以上一緒にやってきたのですが、勤務ではないので「定年」がありません。

「あと何年」と指を折れるのなら、もう少し違った感覚で仕事に臨めるのでしようが、元気なうちは大変な思いをしなければならぬ、というのは確かに酷な話です。さてどうするか? きつとこんな話は我が家だけのことではありません。いつまで続けられるかなど案じながら作っておられるお宅ばかりだと思います。

なので我が家の問題を上手に解決できたら、多くの皆さんの家でもうまくいく道を見つけやすくなるのかもしれない。来季の仕事始めをワクワクする思いで迎えられ準備をしたいものです。

江戸の時代から続けられてきた素麺事業ですから、時代時代に浮き沈みはあったでしょう。生産者が数戸に減った時の当事者は「オラの時代で終わるがやちゃ」とつぶやいていたかもしれませぬ。ねばってれば転機が来るはず。